

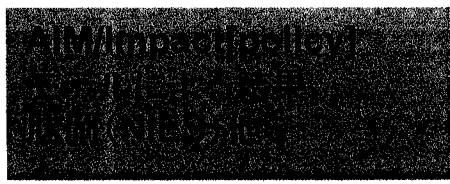
■ BaU ▲ GHG-475ppm ▽ GHG-500ppm ▲ GHG-550ppm ◇ GHG-650ppm

Greenhouse gases
 温室効果をひき起こす
 ガス: CO₂以外にメタン、
 亜酸化窒素、フロンなど

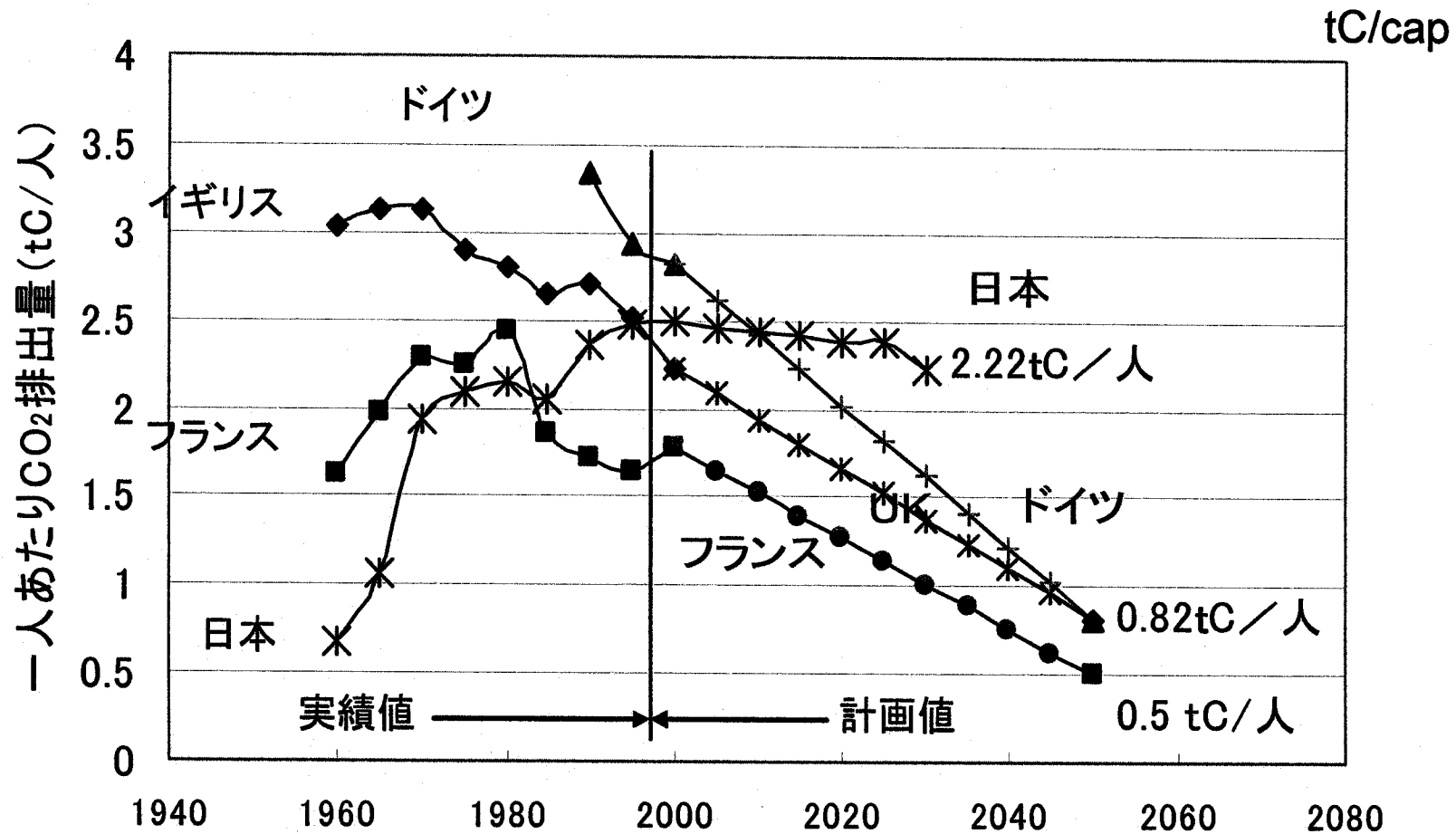
気温上昇を2°C以下に抑えるには、大気中GHG濃度を475ppm以下にする必要がある

- 2050年のGHG排出量を世界全体で、1990年レベルの50%以下に削減する必要がある
- 日本はそれ以上(60-80%)の削減が求められる可能性。欧州諸国(英国60%削減、ドイツ80%削減、フランス75%削減)でも検討。

温度安定化の道筋

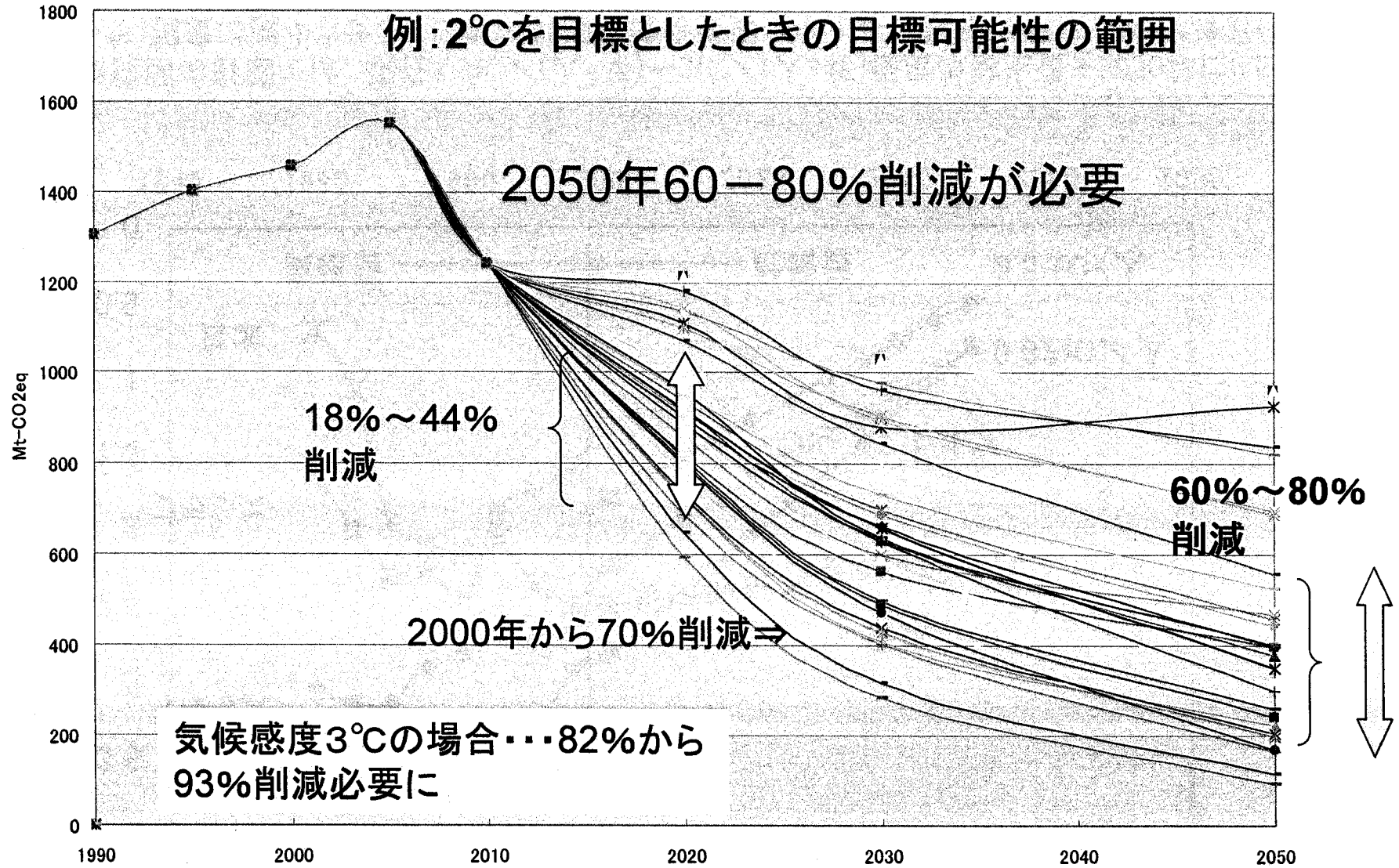


各国のCO₂削減目標



欧州諸国の計画では、現在1.5tC/(人・年)~3tC/(人・年)程度の排出量を2050年に0.5tC/(人・年)程度に減少させる。日本の計画は総合資源エネルギー調査会需給部会が推計した対策組み合わせシナリオ。フランスは温暖化対策関係省庁タスクフォース(MIES),ドイツは議会諮問委員会,イギリスは貿易産業省(DTI)のシナリオ。

日本の2050年排出削減道筋の感度分析:



排出削減道筋決定での3不確実要因: 危険なレベル、気候感度、国際分担

2050年に1990年から70%削減目標設定の意味

- 削減方向への明確なシグナルを社会におくる
 - 安定化時究極には90%削減[一人当たり等量=0.3tC]
 - 削減目標に早めに社会を引っ張る: Backcasting
- 交渉へのボトムラインを探る[腹をくくる]
 - 2050年には途上国も余裕はない。自力でどこまで下げられるか？
- 柔軟な対応のための政策評価ツール
 - 不確実要因: 温度上昇予測、危険レベル合意、国際分担技術進歩
- さまざまな論議の喚起、新提案を期待
 - 70%削減はひとつの試み:

低炭素社会研究の手法 バックキャストの適用

2050年に脱温暖化社会を実現するために、
あらかじめ準備された対策メニューから、

- ・どの対策を
 - ・どの時期に
 - ・どれだけ
- 導入すれば
よいかを推計。

対策メニュー			

